

ホットライン

2010年

意見交換会・概要

(チェコ共和国外務省関係者)

日時：2010年12月6日

場所：日本国際問題研究所（JIIA）

【日本側参加者】

齋木尚子（SAIKI Naoko）

日本国際問題研究所副所長

高木誠一郎（TAKAGI Seiichiro）

青山学院大学教授

鈴木 隆（SUZUKI Takashi）

日本国際問題研究所研究員

【チェコ共和国外務省関係者】計3名（ほか、通訳1名）

局長級1名

大使級1名

副大使級1名

チェコ共和国外務省関係者との意見交換会・概要

本意見交換会は、チェコ共和国外務省の要請に基づき、最近の中国外交と日中関係を主要な議題として、約 1 時間にわたって活発な意見交換が行なわれた。概要は以下の通りである。

1. 中国の内政と外交をめぐる日本側の認識

会議の冒頭、日本側参加者より最近の中国の内外動向に関する認識が示された。ここでは、中国の政治と外交の最大のテーマが、「高度経済成長の持続」と「政治的安定の確保」であり、①現在の共産党指導部が、相互補完関係にあるこの 2 つを、自らの政治権力の維持にとって不可欠のものと認識していること、②中国外交が、そうした政治目標に奉仕すべく位置づけられていること、などが説明された。

また、本年 9 月に中国漁船と日本の海上保安庁の巡視船との間で発生した、いわゆる「漁船衝突」事件と、それをめぐる一連の外交過程に関して、中国が現今の国際社会の常識からみてかなり「粗野」な外交を展開した背景には、やはり自国の国力伸張に対するある種の驕りが感得されることが指摘された。同時に、この事件は、対中・対米関係を推進するに際して、共通の価値観を有する米国との確固たる同盟関係の必要性を、多くの日本国民に再確認させる重要な契機となったことが強調された。

日本側はさらに、衝突事件によって露呈した日中の「戦略的互惠関係」の脆弱性にも言及した。その最大の問題点は、双方の間で「戦略的利益」をめぐる認識の不一致や曖昧さが存在している点が挙げられる。すなわち、「戦争をしない」「武力紛争を行わない」との最低限の合意を除き、台湾問題の解決や日米同盟の深化など、多くの具体的論点について、日中両国の利害認識はかなりの程度異なっている。それ故、こうした「戦略的利益」の具体的中身をめぐりパーセプション・ギャップが克服されない限り、その名に相応しい関係構築はきわめて困難、との見解が示された。

2. 日中関係に対するチェコ側の認識

上記のごとき日本側の見解に対して、チェコ側参加者は、まず、日中両国の良好な競争関係への希望と、日本外交における日米同盟の重要性に対する理解を述べた。続いて、①チェコ当局が、六者協議の推移を含む北東アジアの安全保障環境、および日

中関係における政治と経済の跛行的状況——投資・貿易面での関係深化と複雑な政治・外交関係の二面性——を注視していること、②中国が「歴史問題」を外交カードとして利用していること、などを指摘した後、中長期的にみれば、中国は東アジアに対する自国の影響力のいっそうの拡大と、この地域における盟主の地位の獲得を企図しているように見える、との見方が提出された。さらに、チェコ-中国関係の現状について、①両国関係が経済中心であり、政治的に重要なイシューとしては、EU の対中武器禁輸をめぐる問題が存在すること、②チェコ側の重要な関心事項は、中国からの資源・エネルギーの獲得であること、などが説明された。

また、中国の内政と外交の連動に関して、チェコ側参加者は、以下の 2 点を指摘した。第一に、中国国内では、社会主義イデオロギーの凋落に伴う「愛国主義」の政治的要請と、経済成長に支持されたナショナリズムの高まりが顕著に認められる。第二には、しかし、マクロ・レベルでの経済力の急伸にもかかわらず、国内の多くの地域は、依然として発展途上国の様相を呈しており、こうした内部事情とアンバランスな発展のありかたが、周辺国に対して威圧的な態度をとる重要な要因とみられる。

3. 日中関係と歴史問題をめぐる議論

最後に、上記 1. と 2. の意見を踏まえ、日本側とチェコ側は、日中関係の現状と将来について討論を深めた。双方の参加者は、日中関係の今後の発展において、政治から経済への異なる領域における問題・対立状況の波及を防ぐことが、1 つの重要なポイントである、との認識で一致した。

また、日中関係の大きな「トゲ」である歴史問題について、チェコ側より、中国はいくぶん過去に囚われすぎており、これを政治的キャンペーンに利用することは望ましくないとの意見が提出された。この点について、チェコ側参加者は、チェコとドイツとの関係、および EU の政治統合の事例に言及しながら、①日中両国民は、歴史問題をより積極的な志向に基づいて解消していくことが可能であること、②歴史問題をめぐるチェコとドイツの取り組みは、日中関係の長期的な発展にも大きな示唆を与えるであろう、ことが示された。

(了)